

尾崎義よし 北歐文學翻譯家。明治二十六年二月八日東京生れ、昭和四十四年一月九日歿（九三―六九）。ストツクホルム大學、ベルリン大學を卒業。大正十四年外務省に入局、スウェーデン、ドイツ勤務。昭和二十一年北歐文化協會を設立、理事長となる。一等書誌官、参事官を経て、四十二年東海大學北歐文學社長。

譯書、マトリンドベリイ作『女中の子』或る魂の發展史（一八四九年―一八六七年）『（昭和二十七年十月二十日創元社「創元文庫」）、ラーゲルグヴェイスト作『ロバレーバ』（昭和二十八年四月七日岩波書店「岩波現代叢書」）、P・ユラム作『オージンの子ら』（昭和二十年二月二十日岩波書店「岩波少年文庫」）、A・リンドグレーン作『名探偵カッレくん』（昭和二十一年六月十日岩波書店「岩波少年文庫」）、同『カッレくんの冒険』（昭和二十二年五月十日岩波書店「岩波少年文庫」）、同『名探偵カッレとスパイ団』（昭和二十五年六月二十日岩波書店「岩波少年文庫」）等。著書『フィンランドの文化』（合著・桑木務編、昭和二十六年四月十五日北歐文化協會「北歐文化叢書」）、『外国人の言語生活』（合著・西尾実編、昭和二十二年八月十日明治書院）等。

